

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890100304		
法人名	協同の苑		
事業所名	六甲アイランド グループホーム		
所在地	兵庫県神戸市東灘区向洋町中3-2-2		
自己評価作成日	2020年12月29日	評価結果市町村受理日	2021年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/">www.wam.go.jp/</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	2021年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協同の苑の基本理念	1. 心豊かで幸せな暮らしのお手伝い。
2. 安心して年をとることのできるまちづくりのお手伝い。	3. 優しさと思いやりを持ったひとのお手伝い
自立支援	1. ゲストの思いや気持ちに寄り添い、その人らしい生活を家族とともに支援します。
2. 「古い」「障害」「個性」を理解し、ゲストの力を引き出す支援をします。	
3. ゲストが自己選択・自己決定・自己実現できる生活を支援します。	

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協同の苑が運営する社会福祉施設群の一翼を担う事業所であり、基本理念の「愛と協同」の思想が脈々と流れている。事業所が目指すべき「認知症ケアの指針」を職員と議論を重ねて策定し実践している。入居者の尊厳とそのらしさを大切にする支援と新型コロナウイルス感染防止を両立させている。同じ施設内で開業する内科クリニックと連携した支援が受けられる。外出行事は自粛しているが、施設周辺やベランダを散歩し、テレビ体操、畑の水やりや花摘みをして身体を動かす。美味しいものを食べ、人に触れあう暮らしを大切にするとともに思いから、調理レクレーション、職員が考えてくれたフリーメニューの食材を近くのスーパーに買いに出る。毎月の「ごちそうの日」には寿司や鰻を食べる。誕生会には食べたい料理やおやつのメニューを聞いてもらえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

協同の苑六甲アイランドグループホーム

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年4月に協同の苑グループホームの認知症ケアの指針を作りました。それを浸透させるために定期的に研修を行っています。	法人の基本理念に基づく基本方針と自立支援をベースとする介護観から、事業所が目指すべき「認知症ケアの指針」を職員と議論を重ねて策定して実践している。入居者の尊厳とそのらしさを大切にする支援と新型コロナウイルス感染防止を両立させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナで積極的な活動はできていません。児童館の学童保育児童より21年度の手作りカレンダーを受け取り利用者から寄せ書きを渡しました。今後繋がっていきたいと思っております。	恒例化していた、ふれあい喫茶やオレンジカフェへの参加、幼稚園児との交流、事業所の秋祭りへの地域住民の招待等の行事は自粛している。学童保育児童から手書きのカレンダーを贈られたので、入居者のお礼の寄せ書きとお菓子を贈り継続的な交流を約束した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催の認知症サポーター研修の講師をする。また、介護リフレッシュ講座にも参加しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は運営推進会議の実施は紙ベースであまり話合う事やご提案を頂く事はありませんでした。	法人が行政の担当に確認し、事業所から会議メンバーに連絡して、書面会議形式で継続している。入居者の状況や運営状況等を文書化し「意見・要望シート」と共にメンバーに送り、回答を得る方式で運営している。議事録は事業所受付に備え置いている。	事業所の運営上の最大の利害関係者であり一番の理解者でもある入居者家族と全容を客観視できる地域密着型の知見者をメンバーに加えることを検討してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染予防対策ではマスクやアルコールが不足した際に神戸市や兵庫県から支給やその他予防対策について指導及び提案を頂きました。	新型コロナウイルス感染防止に、県市区からの情報と医師のアドバイスを得て安全な支援を行っている。入居者には手洗い、うがい、外出時のマスクの着用を励行してもらい、職員は行動・健康管理を徹底し、家族面会は禁止したり制限を行ってきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り3ヶ月に1度会議を行い声かけも含めて身体拘束が行われていないか現場の振り返りを行い、会議の内容を周知徹底を行ってまいります。	運営規程で身体拘束は行わない旨を宣言している。事業所内の身体拘束委員会を3カ月毎に開催し、議事録を職員に回覧する。ユニットの扉は常時開錠しており、入居者は自由に入出入りしている。センサーマットの引き放しは止めて、なくせないかを検討している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を発足し月1回不適切ケアの報告や実態について話し合いを実施している。又半年に1回不適切ケアの自己チェックを実施し注意喚起をしています。	管理者等が毎年、法人の虐待防止研修を受けて職員に伝達研修を行う。事業所の虐待防止委員会を毎月開いて、放置すべきでない事由をチェックしている。半年毎に職員アンケートを行って研修に役立てている。業者による職員ストレスチェックを実施している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はあんすこに協力してもらい成年後見人制度の研修を実施する予定だったが、コロナで開催見合わせました。	今年度の研修は、まだ行われていない。入居者には3人の被後見人がいるが、新型コロナウイルス禍の影響で司法書士の後見人の訪問頻度が激減している。必要な場合は、施設1階にある、六甲アイランドあんしんすこやかセンターと連携する。	成年後見制度は、ますますニーズが高まると予想され、事業所にとっても助けとなる制度です。必要と考えられる入居者が制度を利用するまでの支援ができるよう制度を学んでおくことを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明と同意をいただいている。今年はコロナで面会も中止でご家族様とお話する機会が持てない状況。その中でも頂いたご意見にはすぐに対応しています。	管理者は必ず入居者宅を訪問して、生活の様子を観察すると共に重要事項説明書等の内容と介護に伴うリスクを丁寧に説明して契約することになっている。「看取りケアに関する指針」示して入居者の容態が急変した際の対応への要望や看取りの希望の有無を確認する。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年はコロナ感染対策で家庭会を実施していない。家族の意見やクレームはその都度受付けている。今年は運営推進委員会も直接開催できず書面でのやり取りになっています。	毎月、入居者の状況等を報告するため家族等に宛ててメールを写真とともに送信し、同時に意見、要望を聞くようにした。面会への要望が多く寄せられることから、テレビ電話や会議システムの専用アプリを利用して、ウェブ上で面会できるよう対応を急いだ。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は担当者から日頃のご様子を送るようになっている。その際にご家族様からのご要望をお聞きすることもある。今年はお正月に外出が出来ないのでお雑煮の種類や過ごし方のアンケートを取りました。	職員は事業所の各委員会の何れかに属しており、その意見で運営を行っている。職員の意見、工夫で、入居者は敬老祭やクリスマス会の行事また調理レクレーション、フリーメニューの食事を楽しんでいる。年2回、リーダー、管理者による個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回法人内の事例発表会にグループホーム内の取り組みを発表出来る場がある。また、人事制度で年1回昇格・昇級試験の仕組みがある。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修昨年は3名参加者。3か月に1回認知症研修を実施し認知症ケアを見直す機会を作っている。 中途入職者研修や入職年数別研修への参加。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護研修の指導者として講師仲間と連携したり、他の法人の内部監査を受けるなど交流しています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年は新入所者が無かったが、入所前にご自宅へ事前訪問ご家族からご要望をお聞きしている。また、居室の環境を以前暮らしていたお部屋を参考に環境を整えています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族がご本人様に入所の事をどう伝えたらよいか？と相談され、一緒に事実を伝えましょうと説明をさせて頂きました。ご家族様の困りごとと共に考えるようにしています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の訪問で面談記録を作成しています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はユニット固定で、顔なじみの関係ができるようにしている。また、調理や居室の掃除など利用者が主体的に参加してもらえるようにしています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当者会議の前にご家族様に要望をお聞きする。面会回数が少ないご家族には、メールで日々の様子をお伝える。定期受診や衣類、身の回りの物はご家族様に購入してもらうように工夫しています。年賀状は本人から家族に向けて書いてもらい投函しています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナの関係で面会中止を余儀なくされましたが、面会の制限は基本していませんでした。現在がweb面会を積極的に行っています。LINEを使用して動画や写真を送るようにしている。 現在外出も自由に行えない状況ですが、外出が可能になれば地域へ出向きたいと考えています。	外出行事は自粛しボランティアの訪問は断っている。新年は、外泊がなく全員揃って迎えた。家族には年賀状を出した。しかし、調理レクレーション、フリーメニューの日には職員と近くのスーパーに食材の買い出しに出かけ、顔なじみに会うのを楽しみにしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に4回昼食を献立、買い出し、調理を利用者とともにいき、テーブルを囲んで食べるようにしています。また外出は難しい状況ですが、散歩や畑の前で外気浴をしています。			
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて特養などの申込を案内している。グリーンケアとしてご家族に写真を送るなど対応しています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にご家族やご本人に要望をお聞きする。また、誕生日の日はどうなケーキが食べたいかをお聞きするなどしている。契約時は利用者が同席できる場合は一緒に契約内容を聞いてもらっています。	入居前に必ず自宅を訪問して、本人、家族から思いや要望を聴き取っている。自分で意向を伝えられない方の場合は動作や表情から汲み取る。入居後も同様で、把握した思いや意向は毎日の申し送りや月1回のユニット会議で共有している。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴を確認しケアプランに反映させている。来年は外泊、外出ができないお正月を迎えるために個々の家庭の過ごし方をアンケートを取り過ごし方を考えました。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用し、VS測定・排泄・夜間等の状態を記録している。また、随時レクリエーションや外出等活動時の様子を記録し、現状把握に努めています。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を開催し、本人や家族の意向を確認した上で、事前に行ったユニットメンバーへの聞き取りを基に情報共有、意見交換を行い、ケアプランに反映しています。	管理者・居室担当者・計画作成担当者・ユニット職員による担当者会議を3カ月毎に開催する。必要に応じて精神科医に出てもらったり、薬局にも意見を聞いて情報共有しモニタリングに反映して、6カ月毎に介護計画を見直している。		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートや活動時等の記録をヘルパー全員が確認するよう徹底し、情報共有を行っている。その場に応じたケアが出来るよう工夫し、記録に残しています。			

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナで今年は地域の活動に参加できなかったが、昨年までは積極的に参加してきた。また、今年より食事提供方法が冷凍調理を解凍に変更になり、毎週水曜日昼を調理レク日と決めてメニュー決定、買い物、調理を利用者と共に行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナ感染対策にて地域の行事に参加できていないが、昨年までは保育園や地域交流センター、認知症カフェに参加するなどしてきました。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医、精神科医、歯科医と提携し、定期的な往診の機会を設けている。往診で分からないことは専門医へ受診しています。	入居者全員が事業所と同じ建物内にあり月に2回往診してくれる協力医院をかかりつけ医に選んでいる。精神科医、歯科医・歯科衛生士の往診が、それぞれ月に1回ある。専門医受診は家族の付添いが原則だが、管理者が介護記録を持って同伴することが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在であるが、となりの特養の看護師や主治医に連絡、相談し指示を仰いでいます。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院者5名ありました。どの方も入院時に家族と付き添い認知症高齢者なのでなるべく早めの退院を家族と共に医師に相談し、入院後は医療ワーカーと家族と連携を密に対応しました。	今年度は5人が入退院し、入院時には事業所から付添ったが、新型コロナウイルス感染防止の為に出来ず、1人の退院時カンファレンスにしか参加出来なかった。地域医療連携室ときめ細かく情報交換し、全員が早期退院して事業所で介護療養している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針の説明と意向確認書を全入所者ご家族に確認をしています。また、終末期が近づいたご家族には主治医、介護士、ご家族とカンファレンスを行い、方向性の話し合いをしています。現在1名看取りケアを実践中です。	重度化した場合は看取りケアの指針に基づき、主治医と共に説明して家族の意向確認をする。開設から4年足らずで6人の方を見送った。看取りの研修と振り返りを行い、職員は最後に食べたい物が作れた等の良い看取り体験を通じて意識を高めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	7月に事故対策委員会で窒息事故への対応が議題で持ち上がり、ハイムリック法の研修を実施しました。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域包括と一緒に消防訓練を実施しました。1月17日前後に災害訓練を行う予定です。非常食の試食を検討しています。	津波を想定して、グループホームの建物は2ユニット共に2階に設ける設計とした。昼・夜間を想定し1回は消防署が立会って年2回消防訓練を行い、入居者はベランダに避難する。コロナ禍の為地域の防災訓練はオンラインとなり、法人から3人が参加した。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度より不適切ケアの自己の振り返りのアンケートを実施しています。また、プライバシーの研修も実施しました。	居室に職員が入る時は必ず入居者の許可を得る。トイレや入浴では羞恥心に配慮した声かけや支援を行う。不適切な言葉遣いやケアを防止する為、自己と同僚の言動に関するアンケートを虐待委員会が実施し、その結果を用いてユニットで研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言動を制限しないよう努め、排泄、入浴等拒否がある際は無理強いせずご本人の意向に合わせたケアを実施するよう指導している。またそれが風土になるように認知症ケアチームを作り取り組みの仕掛け作りを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中でもご自身のペースが守られるよう、余暇の過ごし方、作業やイベントの有無を伝え、したいことを選択できるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の持ってこられた衣類や髪留め等利用し、その人らしい身だしなみができるよう配慮しています。また、昔から使用していた化粧水を家族に購入してもらい差し入れしてもらおうなど対応しています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭き、食材カット、盛り付け等、利用者個々の能力に合わせて行ってもらっています。	業者が調理し冷凍した食事を温めて提供している。毎週1回は入居者も買物と調理に参加できる簡単メニューの調理レクレーション、月1回は握り寿司かウナギ、及び暦に合わせた行事食を楽しむ。おやつも月の半分くらいはケーキやたこ焼き等を手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせたカロリー調整や形態変更を行っている。食事・水分のチェックシートを活用し、1日の摂取量の把握をしています。		



自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、チェック表にて記録している。また、定期的に歯科医往診あり、随時指導を受けています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートに排泄状況を記録している。排泄状況を基に、トイレ誘導を行っています。今年より排泄委員会を立ち上げ、下剤を使用せずに自然排便を促す方法の検討や個別ケアの追求をしています。	排泄記録シートで全員の排泄パターンを把握し、それに基づく声掛けをしている。夜のみ紙おむつの方が1人いるが、他は布パンツの方が多。夜間はセンサーマットを活用した支援もする。車椅子の4人を含めたほぼ全員がトイレでの排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄委員会を発足し、個別の排泄パターンや日中の活動量を増やすためにどうするかを毎月1回集まり話し合い、アセスメント⇒取り組みを検討し実施しています。現在は朝食時に麦ごはんを提供するなど自然排便を促す取り組みを実施しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めているが、体調やご本人の意向に合わせて時間や曜日を随時変更しています。	入浴は週に2回で、入りたがらない方には日を変える等で対応する。皮膚が汗に弱く週3回入浴の方がいる。一方、支援が難しい時は家族に断って週1回にする方もいる。好みのシャンプー等を使い、ゆず湯も楽しむが、入浴剤は皮膚のトラブルを配慮し使わない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めていないが、21時以降各自就寝できるよう、それまでに着替え等を行っている。就寝まではテレビを観たり、飲物を飲んだりして過ごしてもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師と薬剤師と連携し、服薬後の状況を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を感じられるよう、時期に合わせた食事やお菓子のメニューを利用者・職員で決定し、調理を行う機会を設けています。また日々の洗濯たたみ、掃除、シーツ交換を可能な限り共に行っています。		



自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ感染予防で外出などは積極的に行っていません。ただし散歩は感染のリスクが低いとの事で積極的に行いました。また畑前での外気浴なども行いました。	コロナ禍迄は回転寿司やホテルの喫茶、学校の運動会やハロウィンイベント等、地域の多様な資源を活用して外出し、家族との外出支援もしていたが、全て自粛している。今年度は事業所周辺や海沿いの人通りが少ないコースを使った散歩に力を入れている。	これまでのような外出はできませんが、畑やベランダでの外気浴やリスクの少ない周辺コースでの散歩等の工夫をこれからも続けられることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	緊急事態宣言があけて少し感染者が少なくなったころはスーパーに買い物に出かけ金銭のやり取りを利用者様に行ってもらえる機会を作りました。ご本人様が財布をもっておられる方は財布を持参しての買い物に出かけてみました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	秋ごろよりLINEアプリを利用してweb面会を実施しました。又時々動画を送ったり、写真、ご本人さまより手紙を送るなど対応しました。毎年賀状はご本人様からご家族に書いてもらい投函しました。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激となるような色は使用していない。清潔な場所で過ごしてもらう為、清掃を行い、季節を感じられる制作物や外出時の写真を飾り、居心地のよい空間となるよう努めています。	共用空間の入口に生花を置き、壁には入居者の絵画作品や習字、季節感ある貼り絵等を飾り、家族と座れるよう廊下にもソファを置いている。食事時はテレビを消し音楽を流す。空気清浄機兼用の加湿器を2台置いて湿度50%超を保ち、感染予防を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	余暇の時間をご自身の落ち着く場所で過ごしてもらう為、特定の席を決めずに自身の好きな席に座ったり、自室で過ごせるよう配慮しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み可能にしており、仏壇やご自身の絵などを飾られています。	居室は洗面台とクローゼット、ベッドとカーテンが備付けである。各室に個人で加湿器を置いてもらっている。入居者はそれぞれが使い慣れた家具や仏壇、テレビなど好みの物を持ち込んでおり、マッサージチェアや炬燵を持ち込む方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トレイの場所を絵で表示したり、入居前に事前に家を訪問し環境が変わらないようにレイアウトを考えてたりしています。カレンダーやホワイトボードを使用して今日のスケジュールを書き目に見て確認できるようにしています。		